

(株)タップ

代表取締役社長

清水 吉輝氏

顧客が参加する 次世代PMSが 実用化される時代が 近づいています

(株)タップ

東京都江東区東陽2-2-4

☎03-5683-5314

<http://www.tap-ic.co.jp/>

ホテル・旅館に専門特化したソリューションベンダー。パッケージのコストを両立し、柔軟なカスタマイズを設計思想が統一されているため追加が容易。現在の800ユーザーが、2020年には1000ユーザーまで伸びる見込みで、沖縄の開発拠点の拡充を予定する。AIやロボットを活用したホテルソリューションも研究開発中。

2017年、タップは創業30周年を迎えることができました。記念イベント

「30th Tap THANKS GIVING DAY」においていただいた皆さま、また、全国のユーザーやステークホルダーの皆さまに、これまでタップを支えていただいたことに厚く御礼を申し上げたいと思います。10周年ではタップユーザーの発足、20周年ではタップアワードやホテル研究所の立ち上げなどを行いました。30周年では、次の10年への構想の一つとして、沖縄事業所の「沖縄津梁ITパーク」への移転と、研究実験ホテルの開業計画をご報告いたしました。30年間、ホテル・旅館向けのシステム開発を続けてきた当社ですが、自社でのホテル運営経験はなく、IoT、AI、ロボティクスなどの技術が宿泊産業に

変革をもたらそうとしている時代に、やはり自社で運営ノウハウを蓄積する必要がありという思いからの開業計画です。事業規模や開業時期は未定ですが、実験ホテルとして先端技術や最新のソリューションを活用して得た分析効果やノウハウをユーザーの皆さまに還元できる未来に期待ください。

当社の主力製品であるPMSには、大きな変化の兆しが現れてきました。従来のPMSでは、ホテルの運営側だけが使うことを前提とし、まずは現場でのゲスト対応、そして蓄積したデータベースを経営判断に活用するといった利用法が一般的です。しかし、近い将来、ITの進歩や法改正により、ネット予約・セルフチェックイン・スマートキー・自動精算といった流れが可能になれば、ゲストが直接PMSを利用す

るケースも考えられます。技術的にはこうしたオペレーションも、既にほとんど可能で、2018年はこうした新技術をPMSで検証し、製品開発に着手する第1歩の年になると思います。

とはいえ、現在当社がご提供しているPMSやサブシステムにも、まだまだ改良・拡大の余地は大きく残されています。2018年の夏頃までに、新たなPOSシステムのリリースを予定しており、タブレットを使用し英語にも対応した製品となります。欧米でスタンダードな製品でも必ずしも機能的な優位に立っているわけではなく、日本のホテル・旅館が海外に進出する際には、自社のノウハウを蓄積したPMSを前提にしたいというケースも充分に考えられます。また、異業種からの参入の場合、宿泊産業の常識にと

らわれない斬新な発想のホテルビジネスも現れるでしょう。そうしたユーザーにも、カスタマイズ性の高い当社のPMSをお役立ていただけたと思います。

高稼働率から好調な業績をあげているホテルでも、細部を見直せば非効率な業務が残っていることも少なくありませんし、AIでカバーできる業務領域も広がっています。宿泊産業の人手不足が解消される見込みはほとんどない以上、PMSをはじめとするさまざまなシステムやハードウェアによる、きめ細やかな業務効率アップが要求されてくるでしょう。当社が開発中の小規模宿泊施設向けのPMSも、そうした現状に応えるシステムです。

30年間宿泊業界に特化してシステムを開発してきましたが、ホテル・旅館との情報交換をさらに強化するため、ビジネスソリューション部を新たに設けました。要求通りプログラムを組みましたというだけの「御用聞き」SE会社ではなく、ユーザーの現場の声と先端技術情報の交流により新しいシステムを生み出す、宿泊業特化会社としての強みを發揮していきたいと思えます。